



高騰するリサイクル部品の物流費

お求めやすいお手頃価格を維持するために 業界挙げて低減対策を研究中

自動車リサイクル部品の物流費が高騰しています。お買い求めやすい価格でユーザーから支持されてきたリサイクル部品ですが、高騰した物流費が部品本体価格を上回る事態も生じ、お手頃感が喪失気味。事業者サイドも危機感を募らせています。

自動車リサイクル部品の物流費上昇が関係者の頭を痛めています。安くてお得な自動車修理というリサイクル部品の看板が、物流費の高騰でどこかへ飛んでしまうほどです。

物流費上昇は、大手急便業者が経営戦略を見直し、軽量・小型で取り扱いし

に戻り燃料油価格上昇で窮地に。またリサイクル部品は個人向けに販売するようになっていますが、個人向け輸送は配達時に不在なことも多く、輸送効率が悪いそう。その他さまざまな理由で、物流費を値上げせざるを得ないといえます。

リサイクル部品業者も自主防衛、あの手この手で物流費上昇に歯止めをかけようとしています。本気になって考え出したのは最近のことになるのですが、少しでも物流費を安く抑えるために、各社でまちまちだった物流用梱包資材をそろえたり、誰でも簡単に梱包できるように取り組み手順を整理・統一したりするなどの検討を始めています。

この中心的な役割を担っているのが、昨年リサイクル部品業界が自主的に立ち上げた「物流研究会」です。BESTリサイクラーズ・アライアンスに加盟するビッグウェーブ、エコライン、SPN、ARN、SSG、さらにNGP日本自動車リサイクル事業協同組合、ブロードリーフの主要な自動車リサイクル部品流通事業者が集まり、ときには専門の物流業者の知恵を借りながら物流費削減の

知恵を出しあってきました。

これまでの成果として、リサイクル部品流通事業者がグループごとにそれぞれ作った梱包マニュアルの比較検討を行い、統一の可能性を模索しました。ドアなどの梱包は使う資材も一社ごとに違っていったようなありさまで、これを統一することで多少なりとも物流費の圧縮につながります。さらに作業手順を標準化することも重要な取り組みのひとつで、リサイクル部品の梱包作業が誰でも容易に行え、作業負担が軽減できます。

梱包作業の標準化を進め、同じ梱包資材を繰り返し利用するようになれば「リターナブル」材に置き替えることも可能になります。これも物流費削減の有効手段。リサイクル部品業界ではNGP協同組合がドア、バンパー、エンジンの各用途でリターナブル梱包を開発し利用を始めています。利用状況の情報交換をしながら、他の事業者グループでも利用が可能かどうかの検討を進めることにしています。

もちろん梱包マニュアルが共通化できても、実際の物流費が値上がりしてしまっただけでは本末転倒です。知恵を出し合い、時には輸送業者との交渉もしながら、リサイクル部品をリーズナブルな価格で提供できるよう努力しているそうです。リサイクル部品業界の努力が実を結ぶことを期待したいものです。



物流研究会。垣根を変えて真剣そのもの

やすい貨物へと業務の中心をシフトしたことがきっかけです。ドアやバンパー、エンジンなどは見てお分かりのように形状はまちまちです。しかも重量があり、リサイクル部品は効率が悪い貨物の代表です。大型のリサイクル部品に関して引き続き大手急便業者も取り扱いはしていますが、目が飛び出るぐらいの価格に引き上げました。

形が不ぞろいでしかも重量物もある自動車リサイクル部品を積極的に取り扱っていきこうという輸送業者の数は限られています。そうした業者でも、為替が円安

JARA・守屋副理事長がフィジー仙台名誉総領事に就任 経済・文化の活発な交流に意欲を示す

フィジー共和国の名誉総領事館が、宮城県仙台市に開設されました。名誉総領事には、全日本自動車リサイクル事業連合（JARA）の守屋隆之副理事長が就任しました。

フィジー共和国は島国です。JARAは島国に深刻な影響をもたらす使用済自動車の放置問題、処理問題について調査活動を実施、自動車リサイクルの重要性を説き、解決策を示しました。こうした御縁などが重なり、仙台にフィジー共和国の名誉総領事館が開設される運びとなったものです。フィジー共和国の名誉総領事館は日本では大阪、横浜に続

いて3番目になります。

5月17日には仙台市内のホテルで、名誉総領事館開設を記念した祝賀会が開かれました。村井嘉浩宮城県知事や奥村恵美子仙台市長なども出席する盛大な祝賀会が行われ、席上フィジー共和国のイシケリ・マタイトガ駐日全権大使からJARAの守屋副理事長に名誉総領事の任命状が手渡されました。

フィジー共和

国とは使用済自動車処理問題やその他のビジネス交流を進めてきた守屋副理事長ですが、名誉総領事の任命状を手に「フィジー共和国と宮城、東北の経済、文化、教育その他の交流を深めていければと思っています」と話していました。



マタイトガ大使から手渡された任命状



JARAの仲間も御祝いに駆けつけた

JARA 第9回通常総会を開催 10期の節目を迎え活発な事業展開を誓う



多士済々で活発な論議となったJARA総会

全日本自動車リサイクル事業連合（JARA）は5月15日、東京都中央区日本橋のSPN8階会議室で第9回通常総会を開き、平成24年度事業報告・収支決算、平成25年度事業計画・収支予算などの議案を審議、満場一致で事務局案を承認しました。

平成25年度は第10期の節目の年を迎えるため、収益事業活動や海外リサイ

クル団体との交流など、活発な事業展開を進めることを計画しています。

収益事業では、天明茂理事長中心に自動車リサイクル関連本の出版を企画しています。本の中で自動車リサイクル業者を積極的に取材し、一般ユーザーが理解しやすい本を制作する予定です。また、JARAブランドグッズの販売を行い、自動車リサイクルやフェアトレードの啓蒙に努めることにしています。

昨年、公認会計士である天明理事長を講師に実施したビジネス会計の研修が好評だったことから今年度も研修を継続実施することにしました。ビジネス会計、マーケティング、日本・世界の自動車産業の情勢などJARAの特徴を活かした講師陣、研修内容とすることを企画しています。

国際リサイクル事業者団体との交流では、IRT（リサイクル事業者の国際ラウンドテーブル・ミーティング）、アジア自動車環境フォーラムへの継続参加などを通じて各国との連携を深めます。さらに海外の自動車リサイクル事業者向けに日本のリサイクル工場の見学ツアーや研修事業の受け入れを検討します。守屋副理事長がフィジー共和国の名誉総領事に就任されたことを機会に経済交流その他、フィジー共和国と連携を深めることも考えています。

節目を迎えたJARAの活動を支えるために理事を充実、今期新たにリビルト部品業界から理事を迎え、リンクスジャパンの千葉菊雄社長、イトーパーツの伊藤正展社長に就任していただくことになりました。

環境活動
支える

株式会社高橋商会
 株式会社大晃商事
 株式会社三森コーポレーション
 株式会社鴨下商店
 株式会社三重パーツ

ホームページ、広告、印刷から
 各種イベントまで対応します。

株式会社 イー・モーション

本社

〒540-0037

大阪市中央区内平野町1-1-5

Tel:06-4790-8922 Fax:06-4790-8923

東京オフィス 〒105-0003

港区西新橋1-12-6 富士annexビル7F

Tel:03-5510-1967 Fax:03-5510-6807

e-motion